名だけです」云々。

其五　當日勞働者側の負傷者にして大國病院に入院したるもの、診斷書左の如し。

廿九日付　常峰俊一　二十一年

一、左背脾臓部の刺創（深さ六仙半、縫合二針）右の症狀に付、良好なる經過を以て治療三週間を要するものなり。

廿一日付　常峰俊一　二十一年

一、左背脾臓部刺創（創口長さ二仙、深さ肺臓に達す。創口形狀十字形、創面に依れば多少鋭形なる尖端を有する兩刃ものならんか因に患者の經過良好ならず。

神戸市兵庫西出町六六四
大國病院　醫師　保田芳助

以下樣式略、顱頂部挫創、縫合四針、休養日數七日、前原正雄（二七）△前額部挫創、休養所要日數五日、藤本縫次郎（三五）△後頭部挫創、縫合一縫、休養日數五日、松本源二郎（一九）△顱頂部挫創並に前脛部打撲傷、休養日數七日、川村義則（二八）△臀部打撲傷、休養日數三日、吉澤啓一（二〇）△顱頂部挫創、休養日數五日、岩崎榮（三〇）△顱頂部挫創、長五仙、深さ眞皮、縫合三針、休養日數七日、鶴谷政一（三二）△左顱頂部挫創、長さ六仙、深さ深皮、縫合三針、休養日數七日、粕谷梅吉（三九）△左後頭部挫創、長さ五仙、深さ眞皮、縫合三針、治療日數七日、金山玉清（三七）△右顱頂部挫創、長さ六仙、深さ眞皮、縫合四針、治療日數七日、藤井友二郎（四五）△右顱頂部挫創、長さ六仙、深さ眞皮、縫合三針、辻平五郎（三三）

斯る椿事の後先鋒隊一千五百名は七宮神社著、同宮司の先導にて職工代表野倉萬治氏神前に玉串を捧げ祈願文を朗讀解散したり。此日電氣局前の衝突に於て、神戸聯合會主事代理柴田富太郎氏外二百餘名の檢束者を出したるが、現場の流血事件に就て、檢事局より檢事出動、相生橋署の司法主任とともに現場に出張、實地檢證を爲せり。又、大每神戸支局記者岩崎榮氏は此日現場に於て瓦礫のため、頭部に治療五日を要する打撲傷を負へり。

九、三菱爭議團亦衝突す

二十九日三菱團も亦警察側と衝突したり。これより先、二十八日夜の最高幹部會に於て、飽迄戰の繼續に決したる三菱罷業職工は二十九日午前六時續々會下山に蝟集、午前七時警官の制止も遂に効無く會下山頂に到着急報に接し梶原湊川署長は五十名の正服巡査を隨へ急行し尙陸續登攀し來る職工に向ひ「今日から會社も始業したから此場所で集合する事は嚴禁する。直に解散下山して各自思ひ〳〵長田神社に參拜されたし」と一場の訓示演說をなしたれば、職工も漸く得心し三々伍々下山午前八時二十分長田神社に到着祈願して同神社を出で和田神社に到着參拜を遂げ、十時半湊川神社に到着したる時爭